



Title	苫小牧研究林における植生調査の進捗状況について
Author(s)	奥田, 篤志; 荒木, 小梅
Citation	北方森林保全技術, 40, 6-8
Issue Date	2022
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/87566
Type	bulletin (article)
File Information	01-2.pdf



[Instructions for use](#)

I - 2 苫小牧研究林における植生調査の進捗状況について

奥田 篤志, 荒木 小梅

苫小牧研究林

はじめに

2017年度より基盤調査課題「動物相・植物相文献調査」が開始され、2019年度には文献データベースが公開された。この課題の一環として既存の生物リストの改定を目指し、苫小牧研究林で試行を開始した植生調査の進捗状況と、課題について報告する。

調査方法

地形図や林相図を基に調査地を選定し、調査方法はラインセンサス法を採用した。50m 巻き尺をまっすぐに伸ばし、巻き尺の両側 1m のラインに掛かる植物の種を記録することとし、開始地点と終点にプラスチック杭を入れ、GPS で位置データを記録した(写真.1)。また、調査地では樹冠層を上層、中層、下層に分け、1.5m以下を林床とし、木の幹や枝などに着生したもの、池や川など水中の 6 区分で野帳に記録した(図.1)。調査地へ向かう途中などで見つけた種は、写真撮影しくは標本を採取し、GPS で位置情報を記録した。



写真 1. 50m 巻き尺を伸ばした調査区

林相区分	番号	調査年月日
start: ○ , ”	m	:
end: ○ , ”	m	:
種名	階層	
1	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
2	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
3	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
4	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
5	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
6	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
7	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
8	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
9	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
10	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
11	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
12	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	
13	<input type="checkbox"/> 上層 <input type="checkbox"/> 中層 <input type="checkbox"/> 下層 <input type="checkbox"/> 林床 <input type="checkbox"/> 着生 <input type="checkbox"/> 水中	

図.1 観察場所を区分した野帳

調査の進捗状況

調査目標は年間 100 箇所(ライン)程を予定していたが、調査日数は 10 日間で天然林と湿原を中心に、20 箇所と目標の 5 分の 1 しか実施できなかった。出現種数は未同定のものを含め 211 種で、既存の植物リストの 414 種の約半数であった。

今回の調査による出現種には既存のリストに含まれていない種も多くあり、単純に調査にかける労力が少なかったために種数が少なかったとも言いきれない。調査地の植生を湿原や沼などを含めて幅広く選択した結果、これまで記録されてこなかった種の記録につながったといえる。例えば沼などの水中に生えるヒルムシロ(写真.2)や湿地に生えるムジナスゲ(写真.3)などが新たに記録された。

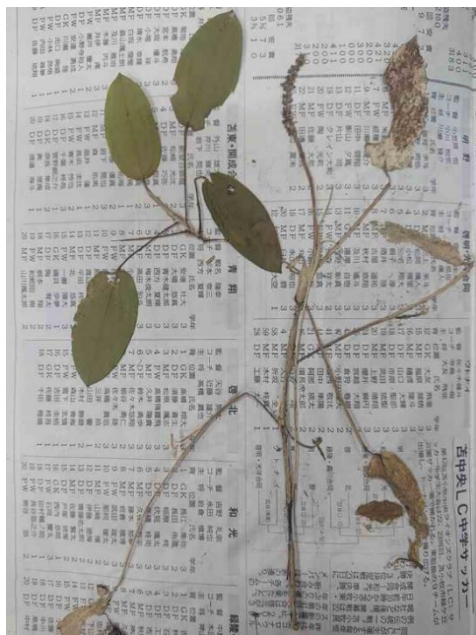


写真.2 ヒルムシロ

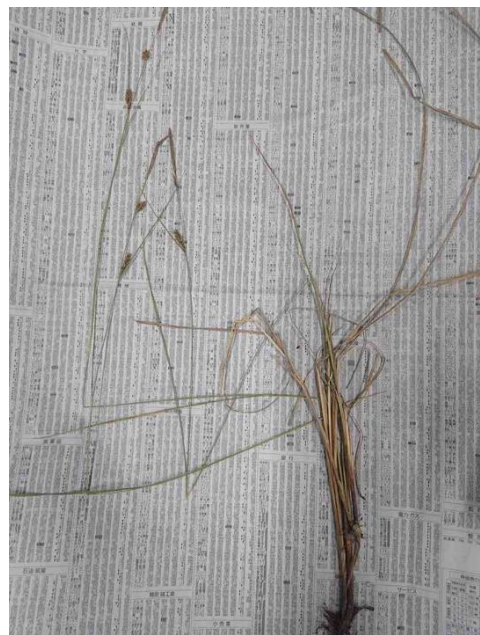


写真.3 ムジナスゲ

一方、以前の調査では普通に記録されていた種が今回は記録されなかったものもあり、エゾシカによる被食や環境の変化による影響が出ている可能性が考えられた。以前は沢沿いの広葉樹林に普通に開花個体が見られたラン科のコケイランは、今回の調査では1度も見かけなかった。同じくラン科のオオフガクスズムシ、セイタカスズムシソウも見つからなかった。また、オオバナノエンレイソウやミヤマエンレイソウ、両種の雑種とされるシラオイエンレイソウなどは極小さい個体しか見当たらず、花がないため種が同定できなかった。

今後の課題

実際に調査をおこなってみると、1回の調査に思った以上に時間がかかった。この原因の一つに、シカの被食によって矮小化した植物種の同定が難しかったことが挙げられる。また、湿原や沼などの調査ではカヤツリグサ科やイネ科不明種が多いと標本採取や同定にまとまった時間が必要であった。これは調査者の技量不足と言え、技術研鑽が求められる。しかし、個人の努力では補えないものもあり、専門的な図鑑購入や講習会の参加などが必要かもしれない。

今後、各研究林で同様の作業をおこなうには苫小牧での調査の数倍の労力がかかると予想される。苫小牧はフィールド面積が小さく、平坦な地形とササ類がほとんどないため、調査地へのアクセスが容易である。身の丈ほどのササが林床を覆い、広大なフィールドを抱える北三林では調査方法を再検討する必要があると思われる。